

ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 214



*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 敵性音楽について知りたい。

答) **全資料** → **敵性音楽**と入力 ⇒ 15件ヒット
『歌と戦争』(767/Sa47) 閉架
『ボクラ少国民と戦争応援歌』(767/Y34) 開架



他のキーワードでも調べてみましょう。

全資料 → **米英音楽**と入力 ⇒ 7件ヒット
『昭和の戦時歌謡物語』(767/Sh79) 開架
『史料週報 第26巻』(317/Sh89/26) 閉架



昭和18年(1943)1月、内務省・情報局はジャズなど米英音楽の約1,000枚の演奏(レコード含む)を禁止しました。禁止や統制の流れは音楽だけではなく、日常的に使用されている言葉にも向けられました。

キーワード: 敵性語 で検索してみましょう。

全資料 → **敵性語**と入力 ⇒ 31件ヒット
『「戦前・戦中」用語ものしり物語』(210.75/Ki68) 開架
『戦時中の日本』(270.75/R25) 閉架



平成30年7月3日(火)～9月24日(月)まで1階の資料公開コーナーにて「禁じられた音楽—自由に楽しむことができなかった時代—」を展示中です。昭和館で所蔵するSPレコードの中から、「敵性レコード盤」の一部と曲を紹介するとともに、当時の新聞や雑誌記事をあわせてご覧いただけます。こちらもぜひお立ち寄りください。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

「サンマの時間」～占領下の日本とサマータイム～



近頃、ニュースなどで耳にする「サマータイム」。夏期に昼間の時間を有効活用することを目的とした制度です。かつて日本でもサマータイムを導入していた時期がありました。

昭和4年（1929）、鳩山一郎書記官長（当時）によってサマータイムが提唱されましたが、実施には至らず、戦後、GHQの指導によって公式に導入されました。

昭和23年（1948）4月28日に「夏時刻法」が公布、施行され、4月の第1日曜日から9月の第2土曜日まで、日本の中央標準時より1時間進めた「サンマータイム」が行われることとなりました。導入初年の23年は5月の第1日曜日から実施され、5月2日午前0時を期して全国一斉に1時間、時計の針を進めました。当時は「サマータイム」ではなく「サンマータイム」というのが一般的で、当時の世相を描いた漫画には「サンマの時間」に戸惑う老夫婦が描かれています。

導入の目的として「日光を十分活用することによって国民の健康福祉の増進をはかる」「昼間の時間を活用して電力石炭などの重要資源を節約する」などが挙げられました。しかし、時刻を1時間進めたために、例えば午前8時に出社することになっている人は実質的には午前7時に出社することとなり、人びとは1時間の早起き・早寝を強いられる事態となりました。また、「終業時はまだ日が高いため残業をしてしまい、結果的に労働時間が増えた」といった声も頻発し、慢性的な寝不足など、国民生活に悪影響をおよぼす結果となりました。

『世論調査報告書 第5巻 昭和26年度』（361.47/N71/5 閉架）に収録されている「サンマータイムに関する世論調査」（内閣官房審議室が実施した調査）によると、「サンマータイムについてどう思うか。来年も続けた方がよいか。今年でやめた方がよいか。」という問いに対して、「やめた方がよい：53%」、「続けた方がよい：30%」、「あってもなくてもよい：15%」、「わからない：2%」と回答しており、半数以上の国民がサマータイムの継続に反対したことがうかがえます。

廃止を希望する理由として「農（漁）村生活にぴったりしない、労働過重になる：26%」「保健上よくない（つかれてだるい）：16%」、さらに「慣習を変更されることを好まない：16%」という意見も少なくなかったようです。反対に、続行を希望する理由には「労働条件や民間企業に好影響（能率が上る）：25%」、「余暇を利用できる：21%」が上位に入り、職業別調査でも「支持者は会社員・公務員等の俸給生活者に多い」ことが指摘されています。

サマータイムは昭和24年（1949）から26年まで行われましたが、日本の地理的環境や日本人の生活習慣になじまないこと、人びとからの不評の声が強かったことなどから、サンフランシスコ講和会議後の昭和27年4月11日に廃止され、わずか4年で終わることとなりました。